



IIPS

平和研講演会シリーズ 2004

2004 IIPS Lecture Series

“国際社会の安定と我が国の進むべき道—地球規模問題への取り組み”

駐日韓国大使羅鐘一閣下

「Regional Cooperation in Cultural Industries」

2004年9月21日 於:キャピトル東急

世界平和研究所は、日本財団の助成を受け、9月21日、キャピトル東急ホテルにおいて羅鐘一駐日韓国大使による「文化産業における地域協力（Regional Cooperation in Cultural Industries）」に関する講演を開催した。

羅大使は、講演の本題に入るのに先立ち、本日の講演は大使個人の私的見解を示すものであって政府見解、あるいは、それ以外のいかなる組織・団体の見解を代表ないしは示すものではないと指摘し、次のように続けた。

個人においても集団においても全ての転換点を迎える時とは、なんらかの問題・困難に直面した時である。



そして、現在の東アジアは、ひとつの転換点にあると思われ、また、アイデンティティの問題が重要化しているように思われる。これには冷戦終結以降の新たな国際交流の開始といった要素も濃厚に影響を与えているのであろう。

むろん、問題というのはその視点にもよるし、解消したり再燃したりもするわけではあるが、現在の東アジアにおける基本的な国

家間関係は良好だと思われるので、その点である程度楽観視することが可能であろう。

また、文化コミュニティの創造が問題解決の方策となり、地域に繁栄と平和をもたらすものと思われる。

さらに、羅大使は質疑に応じながら、東アジアにおいては文化産業における協力をを行う十分な素地があること、また、それを効果的に行う上では産業化・市場化の視点が重要であること、すなわち、単なる文化交流よりも市場化を通じてより大きな力



この講演会は日本財団の助成事業により行っております。



日本財団
The Nippon Foundation

が文化交流に与えられること、また、そのための手掛かりとしては、すでにさまざまな文化産業があり活動を行っていること、そして、それら事業では根源的に収益性が高く大きな可能性を秘めていること、加えて、東アジアには、映画、ドラマ、演劇など多分野の文化産業において、豊富なタレント、文化的遺産がすでに存在すること等指摘し、講演を締めくくった。

この講演会は日本財団の助成事業により行っております。

